

施策番号 2-1-2	施策名 農業生産性の向上と農業の応援団づくり	基本目標	豊かな自然を生かした活力ある農業のまちづくり		
		政策名	基幹産業の農業に対する支援の強化		
主管課 施策関係課	農林課	課長名	手島 旭	内線	410

1. 施策の方針と成果指標

施策の方針		対象	意図				結果		
環境に配慮した農業生産をすすめるとともに、本町農業・農畜産物の理解を促進し、農業の持続的発展を図ります。		農業経営体 耕作地	・環境保全型の農業生産をすすめる ・先進的技術の導入による生産性向上が図られる ・本町農業の応援団づくりを促進する				・環境に調和した農業の持続的な発展が図られる ・地場産の農畜産物の理解、消費者との連携が促進され消費拡大が図られる		
成果指標	説明	単位	年度(策定時)	27年度	28年度	29年度	30年度(目標)		
① 農業産出額	農業生産額(農業再生協議会)	億円	231.3	296.5	253.0	250.0	270.0		
② 日頃、地産地消を意識して買い物をしている町民の割合	住民意識調査	%	74.2	76.0	75.3	80.0	80.0		
③									
成果指標設定の考え方	①農業産出額～農業分野における成果としては、農業産出額は主な指標となると考えており、農業再生協議会として公表数値としていることから、前期計画に引き続き設定したもの。JAの第7次農業振興計画(目標値270億円)と一致。②前期計画で施策としていた、「消費者と結ぶ地産地消の推進」を再編、統合して本施策に盛り込んだ。前期計画の数値の推移などから、90%の目標値は達成困難と判断し、現実的な目標達成を見込んで80%を目標値とした。								

2. 施策の事業費

	27年度決算	28年度決算
施策事業費(千円)	2,051,148	187,270
人工数(業務量)	2.2040	2.1812

3. 施策の達成状況

(1) 施策の達成度とその考察			
①平成28年度の成果評価(前年度比較)	<input checked="" type="checkbox"/> 成果は向上した <input type="checkbox"/> 成果は変わらなかった <input type="checkbox"/> 成果は低下した	想定される理由	災害により、実施できない事業もあった(食育講演会、地産地消バスツアーなどが、土づくりとしての環境保全型農業の推進、農業の応援団づくりで農業小学校、生産振興対策としての有害鳥獣対策、畜産クラスター事業などに取り組んだ。
②平成30年度の目標値達成見込み	<input type="checkbox"/> 現状の取り組みの延長で目標は達成できる <input checked="" type="checkbox"/> 現状の取り組みの延長で目標達成は難しいが、現行事業の見直しや新規事業の企画実施で目標達成は可能 <input type="checkbox"/> 事業の見直しや新規事業の企画実施をしても目標達成は難しい	根拠(理由)	農業産出額については平成27年度に目標達成したが、平成28年度は災害の影響もあり、大幅に落ち込んだ。ただ、災害等がなく、平年並みの状況であれば、目標額を下回ることはないと考えている。生産基盤である土地改良や施設、機械等の導入支援などを継続していく。地産地消を意識して買い物をしている町民の割合については、「芽室町食育推進計画」の進捗状況を把握した上で、改善策を検討し目標達成に向けた取組を推進する。
(2) 施策の成果評価に対する平成28年度事務事業の総括			
①施策の成果向上に対して貢献度が高かった事務事業	めむろ農業小学校運営事業 地産地消協働推進事業 農作物有害鳥獣駆除事業 畜産クラスター協議会運営事業	②施策の成果向上に対して貢献度が低かった事務事業	
③事務事業全体の振り返り(総括)	・めむろ農業小学校や地産地消バスツアーなどは非常に好評であるが更なる成果向上を目指す。 ・「第2次芽室町食育推進計画」は、事業推進と計画の進捗管理を進めていく。 ・農作物有害鳥獣事業では、残滓処理施設を設置し、順調に処理が行われている。 ・畜産クラスター事業については、畜産農家の生産基盤整備、労力低減等に向けて成果があったと考えている。 ・農業ICT化の研究については検討会議等を中心に議論を進めている。		

(3)「施策の方針」実現に対する進捗結果

	A	B	C	D	E
進捗結果			○		

※該当に○印

- A: 実現した
- B: (後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した
- C: (後期実施計画策定時と比較して)前進した
- D: (後期実施計画策定時と比較して)変わらない
- E: (後期実施計画策定時と比較して)後退した

4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

施策を取り巻く状況と今後の予測	畑作・畜産ともに、今後は農家戸数の減少に伴い、担い手への農地集積・経営規模拡大が予想される。生産基盤の整備の支援を含め、今後の農畜産業のあり方をしっかり検討しなければならない状況となっている。本町の基幹産業である農業の重要性を町民に理解していただいた上で、安定した農畜産業経営の基盤となる本施策を継続・推進していく必要がある。
この施策に対して住民や議会からどんな意見や要望が寄せられているか？	有害鳥獣対策事業については、被害軽減のための対策を重要課題として取り組んでいるが、農業者から被害減少や駆除に関する要望が随時寄せられている。

5. 施策の課題認識(現状の課題、新たにに取り組むべき課題)

- 課題① 農業の応援団づくり ～「めむろ農業小学校」や「地産地消バスツアー」などの事業が好評であるが、内容・プログラムの見直しは随時検討していく。
- 課題② 「芽室町食育推進計画」について ～計画進捗管理と、農業分野における関係事業を推進していく。
- 課題③ 農作物有害鳥獣対策 ～農業者への自主防衛意識啓発、残滓処理施設の効果的運用、電気柵設置の支援など、継続的に推進していく。
- 課題④ 「農業ICT化の推進」～JA、役場、生産者の役割を明確にしながら、有効活用への支援をしていく。
- 課題⑤ 畜産課題への対応 ～「芽室町酪農基盤整備構想(案)」を作成中であり、課題整理と対応策をまとめ、畜産クラスター事業をはじめとする効果的な補助事業の活用を検討し、哺育育成施設やふん尿処理対策などの課題解決に結びつけていく。

6. 総合計画推進委員会(庁内評価)

評価	災害の影響がありつつも、農業の応援団づくりは定着しており、施策として前進していると考える。		A	B	C	D	E
		進捗結果			○		

今後の取組に対する意見	有害鳥獣対策は、今後も継続していかなければならない事業であるため、手法を検討し、取り組んでいってほしい。	A: 実現した B: (後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C: (後期実施計画策定時と比較して)前進した D: (後期実施計画策定時と比較して)変わらない E: (後期実施計画策定時と比較して)後退した
-------------	--	---

7. 総合計画審議会(外部評価)

評価	農業小学校などの事業は順調に実施されており、畜産クラスター事業実施や残滓処理施設の運用など成果があり、前進していると評価する。		A	B	C	D	E
		進捗結果			○		

今後の取組に対する意見	●近年クマ被害が多発しており、また災害による林道の封鎖による出没も考えられるので対策してほしい。 ●農業小学校は上伏古青年部と協議しながら、負担にならないよう今後も取り組んでほしい。	A: 実現した B: (後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C: (後期実施計画策定時と比較して)前進した D: (後期実施計画策定時と比較して)変わらない E: (後期実施計画策定時と比較して)後退した
-------------	--	---